

令和3年度 第2回 大阪府立かわち野高等学校 学校運営協議会 議事録

日時: 令和3年12月13日(月) 15:00~16:45

場所: アクティブラーニングルーム

1. 参加者

委員: 6名

蛭田会長、中野副会長、森田委員、今井委員、江田委員、小出委員

事務局 13名

校長、教頭、首席2名、事務長、3年学年主任、2年学年主任、1年学年主任、生徒指導部長、教務部長、進路指導部長、企画部長、保健部長、人権推進委員長

2. 内容

- ・ 事務局より今年度当初の生徒状況説明
- ・ 今年度の重点課題(1人1台端末、観点別学習評価)について

3. 協議

(1) 1人1台端末「オンライン授業」について(資料あり)

Wi-fi環境、Chrombook教員用、生徒用の整備状況について

事務局) 担当者としての心配4点

- ①保証は本当に無制限なのか?
- ②3年生が使用しているChrombookを次年度の1年生に流用(使い回す)のか?
- ③モバイルwi-fiは緊急時(休校時)にしか使えないと言われている。これでは家庭に設備がない生徒への平等性が保たれない。
- ④各校にスペシャリストがいるわけではない。教員でカバーできる範囲を超えている。

委員) 各項目、よく理解できる。質問・感想をお願いしたい。

委員) Google Classroomはどの程度使っておられるのか。

事務局) 全生徒が登録され、各クラスや、科目別のクラスルームで連絡や、教材の閲覧などを行っている。3年生は教養数学などで全員が使っている。G-Meetも試行している。

事務局) 今のクラスルームの様子を見ていただきたい。(ステップアップ講座の確認テスト、Meetのリアルタイム授業の録画映像を視聴) 3年後にはすべての教員がこれをできるようにという計画が指示されている。

委員) 本校でもG-Classroomは活用している。先ほどの説明に対して疑問がたくさんある。大阪府とリース契約をしているのであれば、保証は厚いはず。リース契約の書面を情報開示してもらえないのか。他にも、マニュアル作成やインフラメンテナンスなどの部分はすべて府教委の責任で行えばいいことだと思う。学校の先生は、生徒と向き合う時間を大切にしてもらったほうがいい。

委員) 教育センターにいた身にとっては耳が痛いけど、全くその通りだと思う。センターに行った折に、現場の声として伝えさせてほしい。

委員) 東大阪市は、ipadを1人1台持ち帰りとしている。保証は、故意でなければ現品交換となっているが、義務教育段階の生徒指導の観点で、「すべて保証」ということを伝えることは控えている。卒業した生徒の端末は、回収されて、次のユーザーに回る。wi-fiは家庭に環境がない場合はペーパーベースの代替え指導、FreeWi-Fiを利用してもらったりしている。マニュアルなどはほとんどないので、教員も使いながら覚えている。東大阪ではロイロノートを使用している。office365の導入が進んできているが、データ通信量が多くなるので、休校時のオンライン授業には使用できない。オンラインベースではなく、1人1台端末を持って効果的な学習をどうできるか、という取り組みの方向性。

委員) 体重がかかって破損した端末に関しては保証してもらった例がある。端末を使いこなすのが目的ではなく、今までの学習をより効果的にするには、という活用方法。修学旅行に持参させて写真を撮り、グループごとに発表させたりしている。研修面では、樟蔭女子大学の教授に研修の講師をしていただいている。

委員) 会社の経営者間の会議はZoomになった。だが、コミュニケーションが大事であるので、オンライン授業で1つの画面に40人参加しているのは困難な状況だろう。自主性のある人材の育成を大切にしてほしい。情報の即時性は便利だが、オンライン上の対面で議論をするためには気をつけていかないとはいけない。チャットで会話する人間ではなく、発信力のある人材育成を望みたい。

委員) テスト期間中、息子のLINEに頻繁に「プリント送って」という友人からのリクエストが送られてきて、勉強が邪魔されている様子。友達思いなのはいいが、先生がクラスルームにプリントをアップしておいてくれたら家族としても助かる。

委員) 保護者は登録できないのか？

事務局) 府教委から、アカウントは一人1つしか配布されていない。

事務局) 保護者の紐づけはできるが、通知しか行かないのであまり意味がない。

(2) 「観点別学習評価」について(資料あり)

事務局) 「観点別学習評価」のこれまでの流れと感想について

- ・ 令和2年度の夏に手引の暫定版が送付されてきた。
- ・ 令和3年度周知、令和4年度実施
- ・ 今年度のロードマップの説明
- ・ 評価の対象や方法によってどのように捉え、内規に反映していくかという点で、各校でかなりのばらつきがある。
- ・ ばらつきがある評価の軸の結果が、進路を選ぶ際の入試や採用試験にどう影響してくるのか。すでに先行されている中学校ではどのようなご苦労や成果があったのか。保護者の視点としてはどうか。

委員) 大学入試は、入試の採点・評価は教員が扱わない事になっていて、事務方が行う。そのため、入試に関しては回答できない。

大学の授業評価も3観点である。シラバス作成は綿密に作りこむ必要があり苦労している。

3観点の割合、授業内評価の割合、試験での評価割合も細かく計画する。事前に評価のルーブリックを組んでおき、学生はそれを見ながら目指すべきレベルを判断している。授業づくりは、マニフェストとルーブリック作成から始まる。

その分、評価はそれに当てはめて行くことで算出されるようになっている。私の場合は思考・判断・表現を大切にしているので、その割合が大きい。

授業の最初に授業のねらい、課題の目的を明示しなくてはならない。ルーブリックを見て、こうなっしてほしい姿が伝わる。

委員) 企業としては、主体性があるかないかをまず見る。10年後どんな自分になっていたか毎年問うている。3つの観点は相互に関係していると思う。

知識に自信が出れば、他の2つにもプラスの影響が出てくるだろう。

定量と定性の両方が大事。企業であれば、売上も、ビジョンも必要であるのと同じ。

委員) 本校はAO入試をきっちりやっている学校であると思う。AOで選考したあとに調査書を見ると、学校ごとにこれだけ違うのか、という内容である。しかし、入学後に学生がそれぞれの自信をどう取り戻すか、というのをポイントにしている。それさえあれば伸びていってくれる。

4月の最初の1週間で缶詰にして専門学校生へと成長してもらい、入学を迎えるようにしている。

委員) 4観点から3観点になったが、それぞれの観点をどうみとるか、点数化するか。例えばノートでも、かつては提出するかしないかで見ていたが、今はノートの記述内容に関する基準を確認し、基準を文章化して保護者にも示している。評価に対する説明責任を果たせるようになったということは、いいことだ。保護者にとってもわかりやすくなっているのではないか。

委員) 4観点でやってきたことを3観点にしたことで、重みづけに関する議論を1学期に行った。その結果、国・社・理は2:2:1 / 数・英・保体・美・技家が2:1:1 / 音1:1:1となった。

定期テストは観点別に色分けして集計。採点にも時間がかかる。

授業の振り返りはタブレットを使って残していき、評価に取り入れている。一方通行の授業では振り返りは生まれないので、振り返りの生まれる授業を計画する必要がある。また、毎時間ごとに生徒がどんなことを呟いているかを先生方は記録していかないといけない。

指導と評価の一体化が大事だ、ということの基本にしている。

委員) 小学生の子どもがいる。得意、不得意を見るのと、先生の一言が大事。細かく書いてくれると、先生は良い点をしっかり見てくれるな、と思っている。

事務局) 多角的な観点でご意見をいただけたことは大変ありがたい。今後に活かしたい。

(以上)